

# とさとふる 資料紹介

=82=

ツメともいい、畑から運んだ桑の枝から葉をもぎ取る鉄製の道具です。大量の桑の葉を摘む際に、爪を痛めないように考案され、両手の人差し指にはめて使用しました。指の太さにあわせて調節ができるなど、細かな工夫の跡がうかがわれます。

今回は、次の方から貴重な資料を寄贈いただきました。

(平成十年三月分)

○生糸など四点

(朝日幸男さん／三和町)

○種痘用メスなど四点

(木沢記念病院さん／古井町)

○トワウチ(唐箕)

(古川成明さん／太田町)

○ムギウチなど十点

(板津政夫さん／加茂野町)

○古文書二点

(酒向嘉彦さん／富加町)

○大工道具一式など二十九点

(朝日義春さん／三和町)

○天秤棒など二点

(朝日敏一さん／三和町)

○検定用マユ袋四点

(高山社さん／加茂野町)

○石臼

(酒向静子さん／中富町)

博物館建設のため、現在いろいろな資料を収集しています。

文化課(文化会館内／圃内四〇

八)まで情報をお寄せください。

## 収集資料紹介ノート

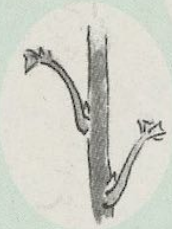
### ーモノに歴史ありー

#### (一)クワツミ

蚕を飼育して繭を作らせるには、蚕の工サとなる桑の収穫・処理に、様々な道具が必要でした。多くの道具には、作業の軽減や効率化、作業環境の改善などのため、先人による工夫がこらされています。今回紹介する「クワツメ(桑爪)」も、小さいながらそんな道具の一つです。



クワツメ▶



▲桑を摘んだ跡

高橋余一画  
『生活絵巻』より

クワツメはクワツミあるいは